みたか環境ひろば

令和７年７月号　vol.92

1　井の頭公園でのセミ観察

－小さな命を守るために私達にできること－

井の頭公園での私のセミの観察は６月から始まります。

ミンミンゼミやアブラゼミが卵から生まれるのは６～７ 月前半の雨や雨上がり。セミが産卵した痕（産卵痕）が残る木の杭やヒノキの樹皮を １ 本ずつ確認してルーペで観察します。その産卵痕から、２ミリ程のセミの赤ちゃん(一齢幼虫)【左写真】が誕生し、自ら土の上に落ちて土の中に潜るんです！３～６年程の土の中での長い幼虫生活を経て夏に幼虫が地上に出て羽化して成虫へ。秋にはニイニイゼミ、ヒグラシの孵化観察が始まります。

その井の頭公園で夏にセミの羽化観察をする中で、セミの幼虫が園路で自転車や人に踏まれ、多数死んでいる現状を目の当たりにしました。以降セミの幼虫レスキュー活動や調査も実施しています。実はセミの幼虫が地上に出るのは、深夜ではなく19～21時頃が多いのです。夏の夜に公園の園路を通る時は歩いているセミの幼虫を踏まないようにライトでよく足元を照らすなど気をつけながら通行し、セミが無事に羽化できるようにみんなで見守りましょう！

人と生き物の共生を考えるよい機会ですね。　（荻窪）

セミの幼虫

2　ビオトープの観察会

ふじみ衛生組合のビオトープの観察会に参加しました。生物多様性の中継地点として、敷地内の緑地の一画に作られました。池の中を観察してみると、花がきれいなタヌキモという食虫植物やヒルムシロと言う浮葉性の水草があり、もっと見てみるとギンヤンマのヤゴ、シッポが三つに分かれているアジアイトトンボのヤゴやショウジョウトンボのヤゴもみつけることができました。

水辺に目を向けると、ミズムシという名前の水生昆虫をみることができ、草の陰にカルガモをニ羽見つけましたが、池の外には、カラスがいて、カルガモの卵を狙っているようです。

施設の一画でいろいろな生物が生息しているのですね。静かに見守り巣立つ姿も見てみたいです。

（大平）

3 「国産のみつろうラップで始める ちょっぴりエコな暮らし✨」講座　開催しました

私が所属する「enchanté ～つながりのはじめまして～」では3月末に三鷹市 消費者活動センターにて「国産のみつろうラップで始めるちょっぴりエコな暮らし✨」講座を開催しました。

みつろうとはハチが巣を作るときにできる天然のろうです。もめんの布にみつろうをアイロンで溶かしてから乾かすと少しパリッとなるので果物や野菜を包んだりとラップのように使用できます。洗って繰り返し使用できるのでエコな暮らしには欠かせません。

ここ数年、11月に開催されるふじみまつりの、みたか環境活動推進会議のブースではおなじみのワークショップです。

はちみつとみつろう ▶

みつろうラップの他に天然ホホバオイル、精油を使ったハンドクリーム、リップクリームも作りました。とてもしっとりとしていいクリームができました。このような講座は不定期で開催しています。　（石原）

◀ みつろうラップ

◀ ハンドクリームとリップクリーム

4 昔なつかしい銭湯のコーヒー牛乳、フルーツ牛乳

幼い頃銭湯に行くとガラスケースに入った冷たいコーヒー牛乳やフルーツ牛乳があり、親にねだって飲んだときのあの美味しさは思い当たる方も多いのではないでしょうか。

先日そのコーヒー牛乳やフルーツ牛乳が近くの銭湯の横の自動販売機にあるとの情報を得たので、さっそくヘルパーさんに頼んで買ってきてもらいました。

ワクワクしながら飲んでみると、味がぜんぜん違っていて、落胆することおびただしい。ああ、あのなつかしい素朴な味は一体どこにいってしまったのでしょうか。

そういえば、銭湯のコーヒー牛乳やフルーツ牛乳といえば、昔はガラス瓶の容器を回収し再利用していましたが、最近では容器がプラスチックや紙パックが多いようです。これは味やリサイクルなどの問題に関連しているのでしょうか。

どなたか、この変化の原因や経過を教えていただけないでしょうか。最近もっぱらそのことが気になって仕方がない私です。　（籠宮）

次回の発行は令和７年10月の予定です

発　行：みたか環境活動推進会議
（愛称　みんなの環境）
連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電　話：0422-29-9612(直)
E-mail：kankyo@city.mitaka.lg.jp

※　本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。